

ぶどう「ナガノパープル」に係るDNA鑑定結果について

県農業試験場では、県育成品種の権利を保護するため、DNA鑑定による品種識別技術の開発を進めています。この過程で、ぶどう「ナガノパープル」を鑑定した結果、花粉親が「ロザリオビアンコ」ではなく、「リザマート」であることが明らかになりました。

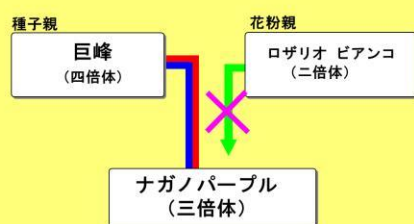
※花粉親とは、交配に用いた花粉の採取元である父親株のこと。
一方、母親株のことを種子親という。

1 鑑定方法

- ・SSRマーカー法によるDNA鑑定
(SSRマーカー法は、ヒトの親子鑑定や個人識別にも用いられている鑑定法です。)
- ・ナガノパープルについては、両親、両親の親、さらにその親までさかのぼって鑑定しました。

2 鑑定結果

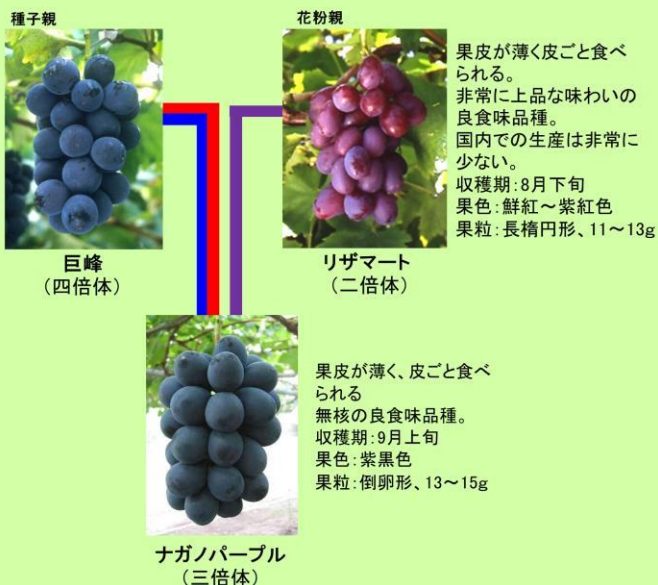
(1) 矛盾があった花粉親



13種類のSSRマーカー中、8種類のSSRマーカーで花粉親からの遺伝子の遺伝に矛盾がある。

※SSRマーカーとは、ぶどうの全遺伝情報の中に存在する品種識別の目印となる反復塩基配列のこと

(2) 明らかとなった花粉親



13種類のすべてのSSRマーカーで両親からの遺伝子の遺伝に矛盾がない。